

1 研究主題 「学習の基盤となる言語能力を身に付けた児童の育成」

—読む・書く・聞く・話す・話し合う等の言語能力向上に向けた授業づくりを通して—

研究主題 「学習の基盤となる言語能力を身に付けた児童の育成」

—読む・書く・聞く・話す・話し合う等の言語能力向上に向けた授業づくりを通して—

- 自分の考えが相手に伝わるように書いたり、説明したり、発表したりすることができる児童
- 人の話をしっかり聞き、話し合い、考えを深めることができる児童
- 文章を正確に読み取り、的確に問いに答えることができる児童

読書活動の推進

- ・図書館利用
- ・家庭への啓蒙
- ・親子読書

地域との連携

- ・学校運営協議会

日常的な取組

- ・ことわざ検定
- ・九九検定 等

授業研究

学校課題

- 自分の考えを書いたり、説明したり、発表したりすること
- 自分の解き方や考えが相手に伝わるように話したり書いたりすること
- 文章を的確に押さえ、書いたり伝えたりすること
- 自分には、よいところがあると思えること

授業づくり

読む・書く・聞く・話す・話し合う等の言語能力向上に向け、言語活動の指導法を工夫し、改善する。
ICTの活用をする。

道徳教育

学習規律の徹底

理論研究

言語能力の向上・自己肯定感の高まり

校内研修計画

甲州市立祝小学校

1 学校課題

祝地区は、自然豊かで葡萄栽培、ワイン作りを中心とした地域である。学校と地域との結びつきが強く、学校教育に地域の方は理解を示し、とても協力的である。温かく優しい地域の方に見守られながら、児童は明るく元気に生活している。

ここ数年、本校の全国学力学習状況調査では、「自分の考えを書いたり、説明したり、発表したりすること」「自分の解き方や考えが相手に伝わるように話したり書いたりすること」「文章を的確に押さえ、書いたり伝えたりすること」「家庭での学習時間の確保と生活リズムを整えること」が、課題として挙げられている。また、NRT 検査結果から課題を把握し、課題解決のために取り組みを行ったが、「人の話をしっかり聞くこと」「話し合い、互いに考えを深めていくこと」「文章を正確に読み取り立式すること」「式の意味を理解すること」が、課題として挙げられている。

令和元年度の校内研究では、「心豊かな児童の育成」をテーマとし道徳科研究を進めたが、道徳意識調査（年2回）を行ったところ、自己肯定感を見る項目で肯定的な回答率が90%に満たなかった。昨年度行った学校生活意識調査でも、自己肯定感については課題が残った。「家庭での学習時間の確保と生活リズムを整えること」については、家庭学習スタンバイを行ったり、担任以外の先生方に家庭学習を見取っていただいたりして、成果が見られつつある。

図書館運営でサーチマスター（調べ学習）の取り組みを2年間弱行っているが、読解力不足が指摘された。昨年度の校内研究で「学習の基盤となる言語能力を身に付けた児童の育成」に迫るために、「一読む・書く・聞く・話す・話し合う等の言語能力向上に向けた授業づくりを通して」のサブテーマに沿って研究を進めた。言語能力向上が見られたが、QU（年2回）の言語活動に関する項目では、改善されない点もあった。

これらのことから、「言語能力の向上」「自己肯定感を高めていくこと」が、学校課題である。

2 研究主題

「学習の基盤となる言語能力を身に付けた児童の育成」

一読む・書く・聞く・話す・話し合う等の言語能力向上に向けた授業づくりを通して一

3 主題設定の理由

本校では、「心豊かで、たくましく生きる子」を学校教育目標に掲げ、重点目標として「やさしい心で、自分から気づき考え、やりぬく子」を掲げている。めざす子ども像として、「未来社会を心豊かにたくましく創造する力を育むために」を副題に、「自ら学び自ら考える子(知)」「豊かな心をもつ子(徳)」「健康でたくましく生きる子(体)」「地域と共に生きる子(地域)」の4つが設定されている。確かな学力をつけるために、「主体的・対話的で深い学び」のある授業をすること、豊かな心を養うためにA（当たり前のこと）をB（ばっちり）C（ちゃんとやる）の取り組みをすること、健やかな体を育むために望ましい生活習慣の形成・体力向上・食育と健康・安全教育をすることを、進める。

新学習指導要領の三つの柱の一つである「学びに向かう力・人間性等」の涵養が、本校の数年来の課題を解決するための手立てととらえ、平成30年度・令和元年度と道徳教育の研究をした。児童の実態を把握し手立てを打つことはできたが、大きな成果とまでは言い難い結果であった。新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、児童に生きる力を育むことを目指す」とし、「言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特徴に応じて、児童の言語活動を充実する」としている。

昨年度は、過去2年間の研究を継承しつつ、本校の課題である「言語能力の向上」を、国語科を中心に進めた。具体像を、「自分の考えが相手に伝わるように書いたり、説明したり、発表したりすることができる児童」「人の話をしっかり聞き、話し合い、互いの考えを深めることができる児童」「文章を正確に読み取り、的確に問いに答えることができる児童」とした。言語能力の育成を図ることができたが、明確な向上が見られない箇所もあった。そこで本年度も継続研究を行う。自己肯定感が高まるように児童にアプローチする中で、更なる言語能力の向上を目指す。以上のことから、本研究主題を設定した。

4 研究仮説

読む・書く・聞く・話す・話し合う等の学習活動を工夫し改善することで、児童の言語能力の育成がはかれるであろう。

5 研究の内容と方法

(1) 授業研究 (研究授業、一人一実践授業、一人一模擬授業、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトへの取組)

授業研究・・・国語科。言語活動を取り入れた授業。

一人一実践授業・・・国語科。言語活動を取り入れた授業。

一人一模擬授業・・・校内研究会で行う。10分間模擬授業。教科は問わない。還流報告(実践報告)でもよい。できる範囲で行う。研究授業者はなし。

(2) 各種調査結果の分析・課題把握・活用

Q-U検査・NRTテスト・全国学力学習状況調査・Q-U検査の言語活動意識項目・国語市販テスト

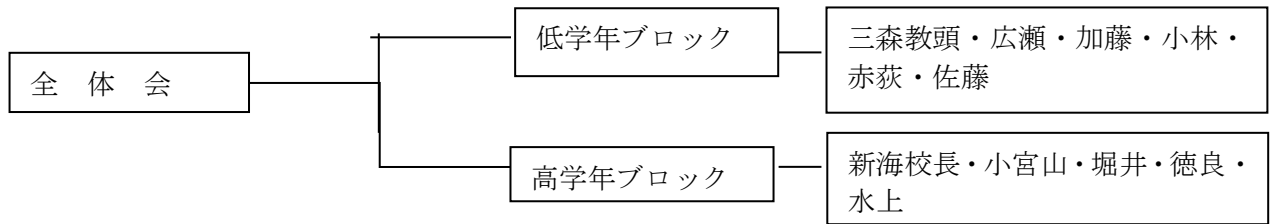
校内研修計画

研究テーマ		教科・領域	担当者	日程 (授業の時期)			T C要請
成 学 習 の 基 盤 と な る 言 語 能 力 を 身 に 付 け た 児 童 の 育	確かな学力育成Pの取組みについて 今年度の研究の方向性について		研究主任	4	5	①	
	今年度の研究主題・研究方法について 祝小家庭学習の手引き・家庭学習について ことわざ等の検定について	教科	研究主任		1 4	②	
	研究主題・研究方法の決定 ブロック組織の決定 模擬授業①	教科	研究主任 校長先生		2 1	③	
	「G I G A」研修① 一人一実践授業計画	教科	教務主任 研究主任	5	1 2	④	
	第1回Q-Uの分析・分析結果の共有化 Q-U言語活動意識項目について、方針発表・共有	集団づくり	ブロック長 研究主任		2 6	⑤	
	確かな学力P 諸富祥彦教授教育講演会	集団づくり	学力育成プロ ジェクト	6	1 6		

読む・書く・聞く・話す・話し合う等の言語能力に向けた授業づくりを通して			研究主任				
	NRT 結果分析・課題把握・対策 模擬授業②	教科	研究主任 教頭先生		2 3	⑥	
	確かな学力P 村川雅弘教授教育講演会	授業づくり	研究主任	7	9		
	ブロック別学習会（授業案検討・教材研究等）①	集団づくり 教科	ブロック長 学級担任		1 4	⑦	
	教育課程説明会の還流報告 「GIGA」研修② 模擬授業③	各教科 教科	各教科主任 教務主任 ()	8	1 8	⑧	
	全国学力学習状況調査結果分析と課題解決に向けた取組について 指導事項を踏まえた単元づくり	教科	教務主任 研究主任	9	8	⑨	
	ブロック別学習会（授業案検討・教材研究等）②	集団づくり 教科	学級担任 ブロック長		1 5	⑩	
	「いじめを許さない集団づくりと不登校児童一人一人に対応した魅力ある学校づくりを目指す」研修	集団づくり	教頭先生・ 生徒指導主任	10	6	⑪	
	「授業づくり・授業改善」に関わる学習会 盛山先生・笠井調査官授業研究会	教科	学力育成プロジェクト		1 3		
	ブロック別学習会（授業案検討・教材研究等）③ 模擬授業④	集団づくり	ブロック長 学級担任 ()		2 0	⑫	
	研究授業指導案検討（全体会）	教科	授業者		2 7	⑬	
	第2回Q-Uの分析・分析結果の共有化	教科	授業者 学級担任	11	1 7	⑭	
	研究授業・授業研究会	教科	授業者		2 4	⑮	○
	確かな学力育成P 河村茂雄先生講演会	集団づくり	学力育成プロジェクト	12	3		
	研究の成果と課題アンケートについて Q-U言語活動意識項目について、結果考察 模擬授業⑤	教科	研究主任 ()		8	⑯	
	確かな学力P 地域連携部会教育講演会		学力育成プロジェクト	1	1 9		
模擬授業⑥⑦ 指導事項を踏まえた単元づくり	教科	() ()		2 6	⑰		

研究紀要作成について 指導事項を踏まえた単元づくり		研究主任	2	9	⑱	
研究のまとめ 指導事項を踏まえた単元づくり		研究主任	3	2	⑲	
研究紀要の作成	教科	研究主任		9	⑳	

6 研究組織



※ブロック長 () ()
 ※研究授業者 ()